

平成27年度

幼・保・小ジョイントプロジェクト
高根沢町の取組



栃木県総合教育センター幼児教育部

栃木県幼児教育センター



I 幼・保・小ジョイントプロジェクトとは

幼・保・小ジョイントプロジェクトとは、幼稚園・保育所・こども園・小学校の教職員が合同で研修し、幼児期の教育の成果を小学校教育に生かせるよう、市町における連携の推進を支援していく事業です。幼児期の教育から小学校教育への円滑な接続が図れるよう、幼稚園・保育所・こども園・小学校の教職員の相互理解、連続した指導計画の作成や連絡体制の整備に組織的に取り組むなど、県と市町が一体となり、地域の実情に応じた連携を推進しています。

平成27年度は、高根沢町で実施しました。高根沢町すべての幼稚園・保育所・小学校を6つのブロックに分けて、各ブロックで連携のテーマを決め、合同の保育研究・授業研究、交流活動などを実施しました。テーマに基づく協議を行ったことで、話題が集約され、より深い相互理解が図られました。また、協議内容を子どもの学びや教師の関わりの視点でまとめ、ジョイントカリキュラムの土台となるシートを作成しました。報告会では、それぞれのブロックの実践を持ち寄り、町全体で成果と課題を共有しました。互いの教育の理解が深まったことで、自分の携わる教育を再考する機会になりました。

ここでは、主にAブロックが行った実践と成果・課題を紹介します。

高根沢町こどもみらい課 沼尾 昇 指導主事より

事業を実施したことで、高根沢町教育委員会を核として、幼稚園、保育所、小学校それぞれに深いつながりができました。何よりも、幼児期から児童期の教育に携わる先生たちが、同じ思いで、子どもの発達や学びについて協議をし、その時期に大切にしたいことを共有できたことが大きな成果だと思います。



幼・保・小連携のさらなる充実のために



子どもの交流活動

先生同士の打ち合せ



point!

- 幼児・児童の双方のねらいを明確にし、互いに学びのある活動を展開しましょう。
- 年間計画に位置付け、幼稚園や保育所と小学校が一緒に活動の立案・実施・評価を行うことが望めます。

一緒に学校探検



小学校へようこそ



連携組織の設置

- ・ 幼・保・小連絡協議会
- ・ 幼・保・小連携推進委員会 等



連携の様々な取組が、効果的に
行われるようコーディネートする
役割があります。

連絡体制の整備



園・校・小・学校たよりの情報交換



point!

- 連絡体制の整備は、行政機関が中心となって進めることが大切です。幼稚園・保育所・小学校が積極的に意見を交換し、地域の特色を生かした組織をつくりましょう。
- 教職員が互いの顔や名前が分かり、日常的に情報交換をしたり相談したりするなど、定期的・継続的な連携が望めます。

教育委員会内の使途ボックス
(幼稚園・保育所等)



定期的な情報交換会



教職員の相互理解

相互理解体験研修



保育・授業の相互参観と協議



合同の研修会



- point!
- 保育や授業を相互に参観したり体験したりして子どもの発達や学びに視点を置いて話し合います。
- 幼稚園・保育所・小学校の教職員が一緒に研修に参加し、互いの教育について積極的に語り合います。

一貫性のある指導計画の作成



伝え合う力育てるための
年度から一年生へのカリキュラム



入学当初のスタートカリキュラム



point!

- 子どもの発達を把握し、見通しをもって指導することが必要です。そのためには、育てたい子どもの姿や能力などを互いに話し合い、どのような指導がどの年齢で必要が明らかにします。
- それらを踏まえ、幼児期の「遊び」を充実させ、児童期の「学習」に生かしていくために適切な手立てをカリキュラムに位置付けましょう。

幼・保・小連携を推進することで

子ども

- ☆ 一人一人の発達や学びの連続性が保障されます。
- ☆ 自分や友達よさに気付き、遊びや学びが広がります。

教職員

- ☆ 子どもの発達段階を知ること、教職員の子ども理解が深まります。
- ☆ 互いの教育を理解することで、自身の教育観が広がります。

保育・授業

- ☆ 幼児教育から小学校教育への滑らかなカリキュラムの接続により、改善・充実が図れます。

栃木県幼児教育センターは、幼・保・小
連携の取組をサポートします。

連携に関する講話・研修・保育及び授業研究会などに
アドバイザーを派遣します。お電話ください。
【連絡先】 TEL 028-685-7215 FAX 028-685-7216
E-mail yoko@ctechi-edu.ed.jp

平成24年3月 改訂

Ⅱ 平成２７年度 幼・保・小ジョイントプロジェクトの実績

1 概要

回	日・会場	内 容
第1回	5/12(火) 高根沢町 農村環境 改善センター	〈 趣旨説明 〉 1 挨拶 県総合教育センター幼児教育部長 森田 浩子 2 趣旨説明 県総合教育センター幼児教育部指導主事 前原 由紀 3 講話「幼・保・小ジョイントプロジェクトに向けて」 宇都宮大学教育学部教授 青柳 宏
第2回	6/22(月) 阿久津 小学校	〈 授業Ⅰ 〉 1 第1学年国語科「たからものを おしえよう」 2 研究協議 (1) 挨拶 県総合教育センター幼児教育部長 森田 浩子 高根沢町立阿久津小学校長 平野 見一 (2) 本日の授業について 高根沢町立阿久津小学校教諭 小松 貴子 (3) 協議「一人一人が自信を持つためにこの時期に大切にしたいこと」 (4) 指導助言 宇都宮大学教育学部教授 青柳 宏
第3回	10/28(水) 高根沢第二 幼稚園	〈 保育Ⅰ 〉 1 オリエンテーション 高根沢第二幼稚園 齋藤 君世 2 年長「ドッジボールを中心に」 3 研究協議 (1) 本日の保育について 高根沢第二幼稚園教諭 酒井 英恵 (2) 協議「一人一人が自信を持つためにこの時期に大切にしたいこと」 (3) 指導助言 宇都宮大学教育学部教授 青柳 宏
第4回	11/12(木) 阿久津 小学校	〈 交流活動Ⅰ 〉 1 年長・第1学年「小学校の活動を体験してみよう」 2 研究協議 (1) 本日の授業について 高根沢町立阿久津小学校教諭 小松 貴子 (2) 協議「一人一人が自信を持つために交流活動で大切にしたいこと」 (3) 指導助言 宇都宮大学教育学部教授 青柳 宏
第5回	2/18(木) こばと 保育園	〈 交流活動Ⅱ 〉 1 オリエンテーション こばと保育園主任保育士 村上 とも子 2 年長・第2学年「スタンプラリーをしよう」 3 研究協議 (1) 本日の保育について こばと保育園保育士 佐藤 絵里子 (2) 協議「一人一人が自信を持つために交流活動で大切にしたいこと」 (3) 指導助言 宇都宮大学教育学部教授 青柳 宏
報告会	3/8(火) 高根沢町 農村環境 改善センター	1 挨拶 高根沢町教育委員会教育長 小堀 康典 栃木県総合教育センター幼児教育部長 森田 浩子 2 ブロック協議 3 発表 4 平成28年度の活動について 5 講評 塩谷南那須教育事務所副主幹 関 一浩

2 実際

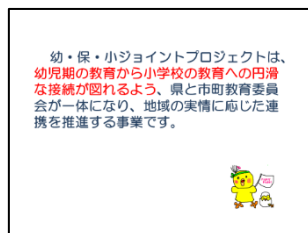
(1) 趣旨説明 (平成27年5月12日)

第1回は、事業の趣旨や連携の意義について、講話や説明を行った。

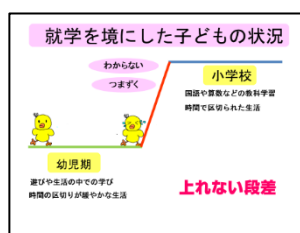
○趣旨説明



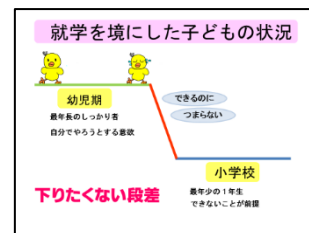
この事業の趣旨や目的等を伝えました。



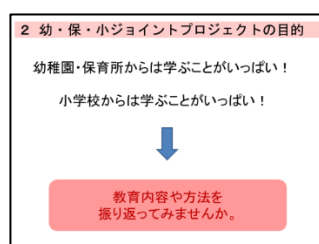
幼・保・小の校種を超えて、高根沢町の連携を充実させたいと思います。



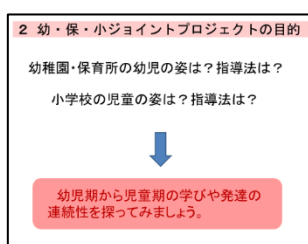
入学すると生活環境が変わり、1年生は、戸惑いを感じることがあります。



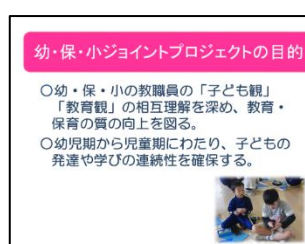
本当はできるのに、自分の力を発揮できないこともあります。



就学が子どもにとって成長するチャンスになるように、幼・保・小それぞれの教育内容や方法から学びましょう。



幼児期に培った力を最大限に発揮して、小学校生活が送れるように、子どもの姿をよく見て、自分が携わる時期の教育内容や方法を振り返ってみましょう。



この事業の目的はズバリこれです！



今年度は、公開保育・授業を通して、幼児期から児童期にかけての教育の在り方を考え、接続期のカリキュラムを作成してみましょう。

○講話「幼・保・小ジョイントプロジェクトに向けて」

宇都宮大学教育学部教授 青柳 宏

・幼・保・小連携の意義

日本の子どもたちは、学力は高いが学習への興味・関心は低い。幼児期に大切に育てている学習への興味・関心や自ら学ぼうとする自発性を消さずに生かして、小学校でも育み続けられたら、成熟した社会が形成されるだろう。そのカギを握っているのが、幼・保・小連携である。

・幼児期の学びを小学校へ

幼児期の教育で、幼稚園は、遊びをとおして自発性や人との関わりを育んでいく。一方、保育所は、生活をしながら、子ども同士が互いにケアをし、育ち合っていく。この幼稚園と保育所の学びのいいところを、先生たちが学び合う場が必要である。また、幼児期は、自分の興味があることをやり続けながらも、友達と関わり、葛藤しながら新たなものを生み出していく学び、いわゆる協同的な学びが大切である。この学びは小学校にぜひつないでいきたい。

デンマークは、幸福度 NO.1 の国である。一人一人が自分を発揮すればいい社会になると考えられている。集団の中で自己を決定する力が育っていることが大切である。その力は、まさに協同的な学びの中で育まれていく。

幼児期に自発性を育めなかった子が、小学校低学年で自発性を育むことができた事例がある。子ども一人一人の幼児期の学びを理解し、学びをつなぐ意識を持って、低学年で何を育てていくのかを接続期に関わる教職員みんなで考えられたらいいと思う。

・接続期のカリキュラムについて

アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムがあるが、それらを分けて考えていたのでは、子どもの学びの連続性は保証されない。また、これらのカリキュラムが「計画カリキュラム」として存在することは大切だが、子どもたちの学びに応じて柔軟に変えていくことのできる「実践カリキュラム」も作成したいところである。



第2回

(2) 授業Ⅰ（平成27年6月22日）

高根沢町立阿久津小学校で、授業公開を行った。幼稚園、保育所、小学校の教職員が参観し、授業の中で児童が自信をもてた場面を記録し、その要因などについて協議した。その中から「一人一人が小さな自信をもつために、この時期に大切にしたいこと」を導き出した。

○第1学年国語科指導案

1 単元名 たからものを おしえよう

2 本時の目標

友達の話を聞いて質問したり、分かりやすく話をしたりすることができる。（話す・聞く）

3 教材観

小学校に入学して、2か月が過ぎ、児童は、学級の友達と楽しく活動したり遊んだりしている。学習の様子では、進んで話す児童がいる一方、自信がなく受け身となっている児童も見られる。本校では、学校課題を「言語活動の充実を図る学習指導の在り方」とし、研究に取り組んでいる。A班では、「一人一人に小さな自信を育てる活動～自らかかわる環境を通して～」を研究テーマにして、どの児童も自信を持って話すにはどのような手立てが必要か、国語の学習を通して考えていくことにした。本校は、「自分で 自分から」を合言葉に、「でとに学習」を進めている。㊦は自分でつかむ・考える、㊧はみんなと深める・広げる、㊨は先生にまとめてもらう・振り返るである。

そこで、本単元では、「でとに学習」の㊨の学び方を使い、隣の友達と質問をしようという話で話すことに慣れさせていき、グループ発表につなげたい。そのために、話し方・聞き方の約束と質問の仕方を確認し、適切な個別の支援により、児童が自信を持って話ができるような学習を展開していきたい。

4 本時の展開（第3時／4時間扱い）

◎研究テーマとの関連 ○人権教育上の配慮

学 習 活 動	単 元	指導上の留意点	資 料	評 価（評価方法）
1 本時のめあてを知る。 ・ともだちのはなしをきいてしつもんをしたり、わかりやすくはなしをしたりしよう。	3	◎事前に、宝物の絵をカードにかき、その後ろに話す文を書いて、意欲を持って話すことができるようにする。	宝物の絵	
2 話し方・聞き方の約束を確認する。	3	・「こえのものさし」で、二人組やグループの声の大きさを確認する。 ◎「はなしかた・かきくけこ」と「ききかた・あいうえお」についてふれ、約束を確認する。	こえのものさしの掲示物 はなしかた、ききかたの掲示物	
3 宝物について、隣の人と交流し合う。	25	◎質問の仕方を確認する。「誰、いつ、どこ、どのように、どんなところ」という観点を想起させる。教師が二人組で手本を見せる。 ・話す人と質問する人が分かるように、赤白帽子を活用する。 ・時間を区切って、質問をしたり、答えたりする。 ◎質問に答えたことを、発表カードに書いて、二人の交流を深めていく。 ◎質問がしづらい児童には、「質問カード」を活用して質問させる。	質問の仕方 の掲示物 赤白帽子 掲示用時計 タイマー 発表カード 質問カード	【話す・聞く】 〈十分満足できる〉 友達と楽しく交流しながら、進んで質問をしたり、理由や説明を加えながら分かりやすく話をしたりすることができる。 (観察・発表カード)
4 グループで順番に宝物の発表をする。	12	◎発表カードを基に、宝物について詳しく教えることができるようにする。 ・教師が手本を見せる。 ○友達の発表をよく聞き、話し方のよい点を認め合う。	発表カード	〈おおむね満足できる〉 友達と交流して、質問をしたり、分かりやすく話したりすることができる。 (観察・発表カード)
5 本時の学習を振り返り、次時の学習内容を知る。	2	・本時の振り返りをして、次時は、別のグループで発表することを伝える。		

○授業の様子～参観者の記録から～

本日のねらいを声に出して読むことで、児童が活動に見通しを持つことができていた。そのことで、安心して学習に取り組める雰囲気ができたのではないか。
(幼稚園教諭)

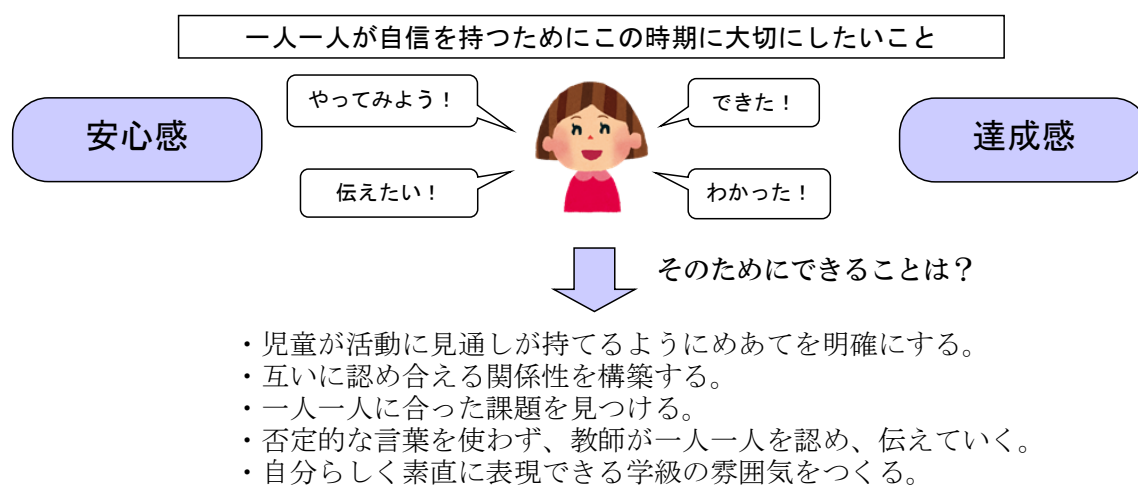
ペアで話していたとき、自分の思いが相手に伝わったことが分かった瞬間、児童がとてもうれしそうな表情をしていた。
(保育所保育士)

帽子を使って発表者を明確にしたり、ペアで話す時は椅子の向きを工夫したりするなど、児童が自信を持って話ができるような工夫がされていた。
(小学校教諭)

「もっと大きな声で話して」「前からヒントカードを持ってきてあげようか？」など児童同士のコミュニケーションがよくとれていた。教師を頼らず、自分たちで考えて行動しようとしていた。
(小学校教諭)

○協議

「一人一人が自信を持つためにこの時期に大切にしたいこと」をテーマに協議をした。



○指導助言（ 宇都宮大学教育学部教授 青柳 宏 ）

- ・ ペアでたくさん語り合うことによって、児童の言葉にふくらみが出たので、伝える相手が3人に増えても、自然に相手に向かう姿勢ができていた。このように、児童が自信が持てるような授業のデザインは効果的である。
- ・ 他人に伝わる喜びや感動を共有できた嬉しさは、自信につながる。幼児期は、遊びや生活の中で、「ここにこれを付けようよ」「これを使ってみたら？」など、ものや場を共有しながら、思いや感動を伝えていく。そこで伝わった喜びが自信となって積み重なっていく。小学生になると、幼児期で培った自信を糧に、場を共有せずに言葉で伝える感覚を身に付けていく。
- ・ 今回、先生が、自分の宝物を使って話し方のモデルを示したように、教師の実感に即した語り方が、児童には分かりやすい。
- ・ 児童が、「言葉の表現者」として自分の言葉で表現し、そのことが相手に伝わったり、誰かから認められたりすると、その子の自信になるのではないだろうか。



グループの友達に伝わるかな？



授業参観後の協議

第3回

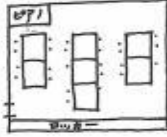
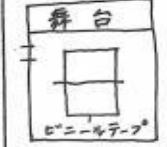
(3) 保育Ⅰ（平成27年10月28日）

高根沢第二幼稚園で、保育公開を行った。幼稚園、保育所、小学校の教職員が参観し、遊びや生活の中で幼児が自信を持てた場面を記録し、その要因などについて協議した。その中から「一人一人が小さな自信を持つために、この時期に大切にしたいこと」を導き出した。

○当日の指導案（年長組）

本園の年長児は、明るく伸び伸びとしていて、何事にも積極的に取り組む様子が見られる。しかし、一人一人を「自信を持っているか」という視点で見ると、個人差があり、最近、やっと自信を持ち始めた子やまだ自信が持てずにいる子もいる。

そこで、本日は、クラスで流行しているドッジボールの活動を中心に、遊びや生活の中で一人一人が小さな自信が持てるように保育の工夫をする。

2015年 10月 28日（水曜日） 指導計画案（5歳児）			
主活動	ドッジボール遊び		
ねらい	・友達と協力して遊ぶ楽しさを知る ・友達の良いところを見つけようとする。		
時間	予想される子どもの活動	指導上の留意点	環境構成・準備
10:20	・朝の活動 ・おねむりのうた ・朝の歌 ・朝の挨拶 ・当番の自己紹介 ・出欠確認 ・出席ノート回し ・日付確認 ・排泄・手洗い・水分補給 ・整列	・全員着席したかを確認し朝の活動を始める。 ・普段と異なる環境なので緊張を和らげるような言葉掛けを行う。 ・一人ひとりの目を見ながら視診を行う。 ・当番に手伝ってもらいながら活動を進めていく。 ・スムーズに準備ができるよう様子を見ながら言葉掛けを行う。 ・運動や椅子を身に付けるよう促す。	保育室 
10:40	・ドッジボール遊び ・チーム分け ・外野・ジャンプボール決め ・試合開始	・ドッジボールが楽しめになるような言葉掛けを行う ・子ども達自身のかで決め事を進めていけるよう見守る。 ・子どもの動きに目を向け、一人ひとりの頑張りを認め、誉めていくことで自信に繋げる。また、友達の成長に気づけるような言葉掛けを行う。	晴天時：園庭  雨天時：遊戲室 
11:00	・試合終了 ・結果発表	・子ども達の気持ちに共感し次回に期待が持てるような言葉掛けを行う。	

○保育の様子～参観者の記録から～

本当に楽しそうにドッジボールをしていた。投げ方、よけ方など、遊びの中で体の動きを獲得していることがよく分かった。
(小学校教諭)

遊びの中で、トラブルがあっても、自分たちで何とか解決しようとしていた。保育者も余裕をもってその様子を見守っていた。
(保育所保育士)

保育者が一人一人のことをよく理解して、その子が一つの活動をやり遂げられるように援助していた。
(保育所保育士)

幼児が自分で納得して行動するまで、教師が待ってあげていた。大人を心から信頼し、自分のペースで自信をつけていく過程が見えた。
(小学校教諭)

○協議

「一人一人が自信を持つためにこの時期に大切にしたいこと」をテーマに協議をした。

一人一人が自信を持つためにこの時期に大切にしたいこと

主体性

やりたい！

できた！



ぼくがやりたいのに

やってみようかな
どうしようかな

葛藤



そのためにできることは？

- ・ 教師が答えを出すのではなく、幼児同士が話し合って解決する場をたくさんつくる。
- ・ いろいろな子と関わって活動する状況を意図的につくる。
- ・ 自分で考え、判断するまで、時間を確保し見守る。
- ・ 不安な気持ちに寄り添いながら一つの活動をやりきることができるように支える。

○指導助言（ 宇都宮大学教育学部教授 青柳 宏 ）

- ・ この園の幼児は、安心して心も体も開いて活動している。大人が心の支えになっているから、不安な気持ちも乗り越えていける。
- ・ この時期は、自分のやりたいことを思いきりやりながら、幼児同士が関わる環境を意図的につくり、心の葛藤を起こさせることも必要である。その葛藤を乗り越えたとき、自信につながっていく。
- ・ 大人は、子どもが葛藤したとき、正解を教えて自信を持たせるのではない。心の支えになりながら、子ども自らが考え、判断できる状況をつくってあげなければならない。



トラブルは話合いで解決



保育参観後の協議

第4回

(4) 交流活動Ⅰ（平成27年11月12日）

高根沢第二幼稚園とこばと保育園の年長組が阿久津小学校に来校して、交流活動を行った。これまでの交流は、小学校が幼稚園や保育所を招待して、幼児が学校に慣れることをねらいにしていたが、今回は「一人一人が自信を持つ」ことをねらいにしたので、幼児はもちろんのこと、小学生も自信が持てるように活動を考えた。それに伴い、指導案の形式も工夫した。

○ 交流会指導案（高根沢第2幼稚園年長組、こばと保育園年長組、阿久津小学校第1学年）

1 単元名 小学校の活動を体験してみよう

2 本時の目標

幼児が小学校の活動を体験することで、小学校のイメージを持って小学校への不安を取り除き、小学校入学への自信へとつなげることができる。

小学生は、幼児と交流することで、2年生になるという自信へとつなげることができる。

3 本時の展開

指導上の留意点（小学生）	時間	活 動	指導上の留意点（幼児）
・クラスごとに分かれ、幼児と向かい合って並ぶ。 ・小学生が司会進行できるようにする。 ・全員で「ともだち」をはっきりと暗唱できるようにする。 ・各クラスごとに国語と算数と生活を実演を交えて説明できるようにする。	20	1 教科の紹介をする。 （多目的室） ・挨拶 ・詩の暗唱 ・教科の紹介	・第二幼稚園児75人、こばと保育園児24人を3つに分けて並んでもらう。 ・興味を持って話を聞けるように、言葉掛けをする。 ・スムーズに次の行動ができるように言葉掛けをする。 ・トイレに促す。
・事前に小学生の隣に椅子を用意して、ペアを作っておく。同じペア名札をつける。 ・指導者からの問いに対して、小学生は幼児と一緒に取り組む。	15	2 一緒に学習する。 （各教室） ・1組・・・算数（いくつといくつ） ・2組・・・音楽（わらべうた） ・3組・・・国語（まいごさがし）	・話をよく聞くように言葉掛けをする。 ・楽しく取り組めるように言葉掛けをする。 ・トイレに促す。
・教室からペアで手をつないで並ぶ。 ・小学生は幼児に言葉を掛けて、メダルを首にかけてあげる。	20	3 一緒に「さんぽ」を歌う。 小学生が幼児にメダルをかける。	

○授業の様子～参観者の記録から～

幼児と児童が一对一のペアで活動しているとき、児童がとても誇らしげだった。幼児が安心して活動できるには、いい方法だと思った。
（幼稚園教諭）

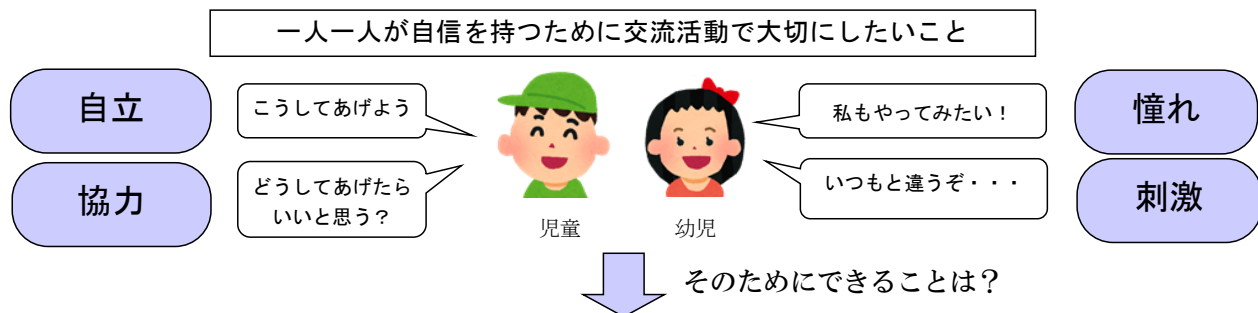
活動をしなが、幼児の表情が和らいでくるのが分かった。小学校への不安が期待に変わっていったと思う。
（保育所保育士）

幼児が学校や授業のことを1年生にたくさん質問していた。児童は、言葉をかみくだいてなるべく幼児が分かりやすいように言葉を選んでいった。
（小学校教諭）

日頃、がまんできないことも、交流活動ではがまんしていた。一番下の立場から、上の立場になることで、児童の普段とは異なる姿が見られた。
（小学校教諭）

○協議

「一人一人が自信を持つために交流活動で大切にしたいこと」をテーマに協議をした。



- ・ スモールステップの目標を提示し、自分でできた満足感を感じられるようにする。
- ・ できていることを言葉にして、自覚させてあげる。
- ・ 幼児、児童と共に考え、そのアイディアを実現させてあげる。
- ・ 様々な人と意図的に交流し、刺激をもらい、教育や保育に生かす。

○指導助言（ 宇都宮大学教育学部教授 青柳 宏 ）

- ・ 1年生が、幼児ができることは見守り、ここぞという時に手を貸していた。もっと1年生に役割を与えて見守れば、どんどん伸びるのではないだろうか。
- ・ 幼児が、小学校への憧れを抱くために、バラエティーあふれる環境がつけられていた。
- ・ 幼児と児童が一对一のペアになって行動することは、交流において有効な手段である。幼児の安心感や児童の責任感につながる。
- ・ 交流の計画を立てるときに、学びをキーワードにして考えるとよい。幼児と児童の双方に学びがある交流でなければならない。



思ったとおりにやってみていいよ



授業ってこんな雰囲気なんだね

第5回

(5) 保育Ⅱ（平成28年2月18日）

こぼと保育園に、阿久津小学校の2年生が来園し、年長児と交流を行った。保育園で行う交流活動は初めてだったが、前回の交流の成果を生かして、幼児と児童の双方に学びがあり、自信が持てるような活動を園全体で考え、実施した。

○ 交流会指導案（こぼと保育園年長組、阿久津小学校第2学年）

日 案 5歳児 ぱんだ組 こぼと保育園

年・月・日(曜日)		平成 28年 2 月 18 日(木 曜日)		
ねらい		・体験、経験したことを伝える。		
時 間	子どもの活動	指導上の留意点	環境構成	
10:40	ぱんだ組挨拶			
10:45	思い出シアター 「ぱんだ組の1年間」 * 1年間の思い出を 発表する。	保 1年間の行事を振り返り 楽しかった思い出を自信をもって 発表できるよう事前に声をかける。 保 安心して発表できるよう 必要に応じて声をかけ 自分たちで考え進めていけるよう見守る。	・イス	
11:00	こぼと保育園 スタンプラリー * 6グループに分かれ スタンプを集めるカードを 製作する。 * 各クラスをまわり スタンプを押す。 * 全クラスのスタンプを集めたら ホールへ戻り最後のスタンプを押し終了。	保小 園内での約束事、まわる順番などを確認してから始める。 保小 楽しく取り組めるように言葉かけをする。 保 どこに何組があるかなど説明したり 進んで行動しようとする姿を見守っていく。 保小 スタンプをすべて集めた達成感や進んで行動できたことなど共感し 認め 自信へとつなげていく。	・カード ・えんぴつ ・消しゴム ・机 ・イス ・スタンプ ・スタンプ台	
11:20	ぱんだ組挨拶			
		保 保育園児 小 小学生		

○保育の様子～参観者の記録より～

事前準備がきちんとできていたので、教師が指示をしなくても自分たちだけで活動することができていた。
(小学校教諭)

自分の園なので、幼児がとてもはりきっていた。2年生は、そのような幼児を立てながら一緒に楽しむことができていた。
(小学校教諭)

どのクラスの保育士も、幼児にも児童にも関わり、ほめていた。園全体で取り組んでいてすばらしい。
(幼稚園教諭)

「どうやるんだっけ?」「こうした方がいいんじゃない?」など、友達に伝えながら遊びを進めていた。先生や友達と相談する場面がたくさんあった。
(小学校教諭)

○協議

「一人一人が自信を持つために交流活動で大切にしたいこと」をテーマに協議をした。

一人一人が自信を持つために交流活動で大切にしたいこと

心の余裕

今、こういう状況だから
私はこうしよう



児童

幼児

みんなでやれば
できるよ!

はりきり

相談

活動の見通し



そのためにできることは?

- ・全教職員で児童ならどうするか、幼児ならどうするかなど、行動を予想して、交流の活動内容を考えて環境をつくる。
- ・全教職員が交流のねらいや活動内容を把握し、当日、幼児にも児童にも適切に関われるようにする。
- ・前日に環境を整え、当日は必要最小限度の声掛けにとどめる。
- ・ペア、グループや静的、動的な活動など、多様な活動を組み合わせると、それぞれの場面ではりきって活動できる子がいる。

○指導・助言

(宇都宮大学教育学部教授 青柳 宏)

- ・ 保育園は、生活をしながら人との関わりを育んでいる。幼稚園は、遊びの中で人との関わりを育んでいる。それぞれのよいところを学ぶためにも、保育所と幼稚園がもっと学び合う機会があればよい。
- ・ 保育園児は、生活の中で目的を持って学んでいて、自信を持ってその力を発揮できている。この力を小学校にどうつないでいくのが課題である。そもそも、教育は抽象的なことを子どもに強いていくことが多いが、一年生では、まだそれでは理解できない子もいる。もう少し具体的なことも取り入れながら生活を作り上げていく必要がある。



小学生ってすごいなあ



また来てね～

3 成果と課題

全ブロックが一堂に会し、互いにそれぞれの実践報告を行い、成果と課題を明らかにした。



沼尾指導主事より協議の方法について説明がありました。KJ法で行いました。



個人作業で三色の付箋紙に、成果と課題と解決策を書きました。



付箋紙を貼りながら、一人一人発表しました。



それぞれの校種によって成果と課題は様々でしたが、来年度も続けたいという意見が多く聞かれました。



成果と課題を分類したりタイトルを付けたりしながら整理しました。



来年度に向けて課題を改善する方法を考えました。



それぞれのグループの協議の結果を聞きに行きました。



塩谷南那須教育事務所の関副主幹より講評がありました。

【 成果と課題 ※参加者の振り返りシートより抜粋 】

- ・ 小学校の先生との距離が近くなりました。交流をとおして、幼児の小学校への緊張感、不安感が安心感、期待感に変わっていくのが分かりました。(保育所)
- ・ テーマを決めたことで、幼稚園、保育所、小学校が同じ目標を持って連携を行えたので、双方の子どもたちにとって、学びのあるよりよい活動を計画することができました。(幼稚園)
- ・ 幼児教育に関わる先生たちと協議をしたことで、違った視点から子どもを理解することができるようになりました。また児童や保護者の情報交換が気軽にできるようになりました。(小学校)
- ・ 交流時間をもっと長くしたい、保育、授業研究のテーマをもっと絞り込みたい等、前向きな課題がたくさん出ました。よりよい連携を目指して、工夫をしながら継続させていきたいと思えます。(小学校)

【 講 評 】

塩谷南那須教育事務所 関 一浩 副主幹

○幼児と小学校の交流活動の充実

交流活動の実施に当たり、年間計画を見直したり、事前、事後に打合せをしたりするなど多忙に思えるかもしれないが、交流活動は、双方の子どもにとって大変意義のある活動なので、工夫しながら計画的、継続的に取り組んでいってほしい。

○教職員の相互理解の深化

相互参観や交流活動、研究協議等を通して、子どもの発達を長期的な視点でとらえ、互いの教育内容や方法について理解を深めることができた。互いの教育を理解した上で、改めて自分の携わる教育を見直し、生かしていくことが大切である。

Ⅲ さらなる幼・保・小連携の充実に向けて

今年度のジョイントプロジェクトは、高根沢町教育委員会が中心となり、町全体で組織的に展開されました。各ブロックとも、本音で協議ができる関係性が構築できたことは大きな成果です。

A ブロックでは、「一人一人に小さな自信を育てる」をテーマにして、その視点で5歳児の保育、1年生の授業、交流活動を実施し、協議をしました。そして、そこから見えてきたその時期に大切にしたい子どもの姿、指導のポイントを一覧表にまとめ、ジョイントカリキュラムの基礎となるものを作成しました。

テーマ「一人一人に小さな自信を育てる」 平成27年度 高根沢町ジョイントプロジェクト					
交流の時期	5歳児10月	5歳児11月	5歳児2月	1年生6月	1年生11月
保育・授業の内容	幼稚園の「ドッジボール遊び」	小学校での授業体験	小学生の保育園体験	小学校1年生の国語科の授業	小学校1年生と幼稚園・保育園児との交流
子どもの様子	 「友だちっていいな」 運動会を終え、子ども同士の絆が深まっている時期。ボールの取り合いで泣いてしまった友だちの顔を、かわるがわるの声をかけると、泣き止む姿が見られた。 「大丈夫だよ」 活動に出発してしまっただ友だち「○○ちゃん、今なら間に合うよ」声をかけると、子どもたち同士で「悪いやり」が見られ、「OOくん、お願い!!」ボールを追いかけると、男児に「お願い!!」の声がかかる。その子より男児的にゲームを楽しんでいた。 「ルールだよ」 ルールのある遊びを体験し、「今はOOくん!!」と、子ども同士で審判の役割を行っていた。	「小学校への憧れ」 小学校1年生とペアを組み、授業を体験した。わからないことがあった時に教えてもらいながら、次第に緊張がほぐれ、安心した表情を見られていた。 長き道のりリボンの旗をそろえて比較し、異数の考え方を知る等、学校での授業に興味を持っていた。 「それ知ってる!!」 先生の話を理解できた異数や、すでに知っている問題を教えることにより、緊張がほぐれ、楽しんでいる表情が見られるようになった。 「いつもと違うぞ?」 幼稚園・保育園では考えられないような学校では驚いてしまっている。でも、もう少し自信を持って欲しいと、先生が積極的に指導している姿も目についた。	「みんなでやればできる」 年長児と小学生が一緒にグループになり、園内で数々のミッションをクリアした。意見を出し合い、考えながら協力する姿が見られた。 「案内するよ!!」 「ついてきて!!」 年長児がリーダーシップを発揮して小学生を案内していた。年長児は自信を持ってつづき、小学生は、年長児をたてつづき、サポートする姿も見られた。 	 「思いが伝わったよ!!」 2人組になって、言葉で伝え合う場面では、言葉が相手に伝わらないうまく通じず、満足そうに笑顔を見せていた。 「自分たちでできるんだ」 「もっと大きい声でして大丈夫だよ!!」 「あれ、読んであげよう!!」など、先輩同士で自分たちで考えて行動していた。 	「小学校ってね」 小学校にやってくる年長さんに小学校のことを教えてあげた。幼稚園に比べて国語や算数、生活科などの学習をした。働きは違って、できるようなったことを伝えていた。  「だいじょうぶ」 年長さんが不安そうにしていたら、やさしく声をかけアドバイスする姿が見えた。できたことを自分のことのように喜んであげてくれた。
この時期に大切にしたい指導のポイント	子ども中心の「あそび」 - 結果を求めたり、答えを教えださない勇気が大切。 - 教師に依存した判断から、子ども同士の話し合いへと発展できる環境づくり。 「自ら考える」 様々なタイプの子ども同士が関わらざるを得ないようなシーンをたくさん与え、自分で考える体験を促すことが大切な時期。	「小学校への関心と憧れ」 - 参加と体験を重視した交流活動の実践がポイント。 「やらされた」ではなく、「やった」の体験を仕組むことが重要時期。 - 双方向的な相互交流に効果が見られる。 	「小学校生活への期待」 - 年長児と小学生が、自然に融け合うことがポイント。 - 自然な交流ができるような活動や、雰囲気づくりが大切。 - 保育園での育ちを子どもたちに実感させたい。	「安心感」と「達成感」 - 一人一人に応じた課題の模索 - 授業のめあての明確化 - 互いに認め合う関係性の構築 - 自分を素直に表現できるような学級の雰囲気づくり 「伝えられる喜び」 幼稚園・保育園等での場の共有や、相手から、道を共有していない相手に話を聞いて表現する時代へと変わっていく子どもたちの姿には、「伝えられる喜び」や認め合いが重要。	「自立」と「協力」 - 少しの頑張りで達成できるようなステップの目標を立てて取り組むことがポイント。 - 保や園の役割を果たしたことで、みんなのために活動できたことを確認し、互いに認め合う関係性の構築する。 - 相手や周りの様子を考えながら行動することができるようになってくると、協力して大きな力を発揮させる活動も取り入れ、達成感を味わわせたい時期。 - できていることを言葉に表し子供たちに伝え、小さな自信を育みたい。

今後、これを基調として、連携を継続させながら、接続期の教育内容や方法の見直しを行い、より充実したジョイントカリキュラムを作成したり、カリキュラムを地域に発信したりして、幼児期から児童期にかけてのさらなる教育の充実を提案していくことが望まれます。

幼児教育センターでは、各地域でこのようなカリキュラムを作成し、接続期の教育・保育の質の向上を目指せるように、引き続き、市町教育委員会、教育事務所と協力して連携を推進していきます。

地域で取り組む「幼・保・小連携事業」の参考にしてください。

行政と幼・保・小の教職員が一体となって、
栃木県の幼・保・小連携を推進しましょう！

